

大学 アーカイブズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2010.3.31 No.42

Eastern Japan Section, The Japanese
Association of College and University
Archives

目 次

・塚田 博「齊藤智朗氏講演 「國學院大學における校史関係事業への取り組みについて」を聞いて」	1
・内藤 幸江「全国研究会（テーマ「大学史の社会的使命」）に参加して」	2
・西山 伸「「全国大学史展」の内容等について」	4
・伊藤 彰男「西川武臣氏講演「ペリー来航と横浜開港」を聞いて」	5
・永田 彩子「全国大学史展「日本の大学—その設立と社会—」展示観覧と展示評・1」	6
・永藤 欣久「全国大学史展「日本の大学—その設立と社会—」展示観覧と展示評・2」	7
・全国大学史資料協議会2009年度総会議事録・記念講演記録	9
・全国大学史資料協議会2009年度役員会議事録	10
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録	11
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録	12
・全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿	16

2009年10月14日～16日 全国大学史資料協議会2009年度総会ならびに全国研究会・記念講演

齊藤智朗氏講演「國學院大學における 校史関係事業への取り組みについて」を聞いて

駒澤大学禅文化歴史博物館 塚田 博

今回、國學院大學に新しくオープンした、学術メディアセンターに初めて足を運ばせていただく機会を得た。

この学術メディアセンターは、文部科学省のオープン・リサーチ・センター整備事業のもとに展開される、國學院大學研究開発推進機構の中心となる棟であり、今回の齊藤氏の講演は、その中の校史関係事業の位置付けについての内容であった。

齊藤氏は、まず、國學院大學の校史上の特徴・性格として、同大学は皇典講究所を母体として、日本の伝統文化を中心とした研究教育活動を行ってきた歴史を持つ大学であるということを述べられた。続いて、研究開発推進機構に設置される、伝統文化リサーチセン

ター（資料館）、校史・学術資産研究センターなどについての説明があった。同機構は、それまでの諸組織を統合・再編して、平成19年度に発足したものである。

今回の講演と大きく関わるのは、校史・学術資産研究センターであり、齊藤氏はその特徴を、校史研究と学術資産研究の大きな二本の柱を立てていることであると強調された。具体的な活動は、卒業アルバムのデジタル化、図書館貴重書のデジタル・ライブラリーの公開、自校史教育用テキストの作成などがあげられている。各々について触れている余裕はないが、「國學院大學における大学アーカイブズ体制の構築」と「國學院大學の学術資産の公開と研究」を事業目的とし、これにより、

従来、校史事業課のみで行っていた大学史事業から、「共同利用研究機関」の一つとして、同大学が長年収集・蓄積してきた学術資産も広く研究対象に加えた活動を行っている。

大学には、直轄あるいは付属のさまざまな研究機関や施設等が存在している。各々はその大学の特徴を示した研究活動が行われ、学術研究に供していることはいうまでもないが、多くは個別の活動となっているのが現状ではないかと感じられる。そこには各大学の経営上の問題・組織上の問題などさまざまな事情が存在する。大学史を例にとってみても、各大学での運営形態（所属部署など）がさまざまであることは周知のところであり、組織間の横の連携に課題を持つところも少なくない。

筆者が所属する駒澤大学では、百二十年史の刊行後、百二十年史編纂室は大学史資料室へと変更し、禅文化歴史博物館内に設置された。百二十年史編纂の過程、あるいはその後の資料収集・調査の成果は、「大学史展示」として博物館内で隨時公開している。しかし、蓄積してきた成果の利用体制や、総合的な大学アーカイブ体制という点では、さらなる組織間の連携や体制の検討が必要とされるであろう。

齊藤氏は、大学史について、「体系的」「多様性」「共通性」などのキーワードを用いていた。これらは重要な要素であるとともに、大きな課題であろう。國學院大學の研究開発推進機構、とくに校史研究と学術資産研究の両輪は、その課題を克服しようとする意欲的な体制であった。現在の体制になるまでは、さまざまな議論や労苦があり、現段階でも絶えず模索されていることであろうが、今後の大学史事業の上で、モデルの一つとされる存



講演する齊藤智朗氏

在となるであろう。

雑感ではあるが、國學院大學と筆者が所属する駒澤大学は、神道・仏教の違いはあるが、ともに宗教職養成・教育の機関を母体とした大学ということがあり、大学の歴史の共通性や、その後の展開などから、興味深く拝聴させていただいた講演であった。大学史事業の抱える課題と、目指していく姿を改めて考える良い機会とさせていただいたことに、感謝申し上げる。

なお、本稿執筆中に、「全国大学史展 日本の大学—その設立と社会—」(2010年1月15日～2月14日)が、明治大学博物館で開催され、東日本部会研究会で見学する機会を得た。折しも大学史の「体系的」「多様性」「共通性」を具現化した初めての試みであった。全国大学史資料協議会が20年の節目を迎えた今、従来の体制や成果を展開させ、新たな大学史事業を構築していく時期であると、國學院大學の事例や全国大学史展の開催を通して痛感した次第である。

全国大学史資料協議会2009年度全国研究会

全国研究会（テーマ「大学史の社会的使命」）に参加して

女子美術大学歴史資料室 内藤 幸江

今年度の全国大学史資料協議会の全国研究会テーマ「大学史の社会的使命」は、私にとって魅力的なタイトルでした。

女子美術大学では9年前の創立百周年を機に、歴史資料整備委員会を立ち上げ同窓会等の協力を得て、全学的にさまざまな資料を収集して年史を発行しました。しかしその後の

数年間委員会が休会状態でした。3年前に歴史資料整備委員会を再開、歴史資料室を設置し、百周年時に収集した資料とその後の資料の調査整理をしていたところに、杉並キャンパス校舎建て替えによる研究室・教室・図書館の移動等により明治・大正・昭和初期の書類・教材・アルバム等昔の資料が出てきまし

た。歴史的資料の収集調査、整理保存、調査研究これらをどのようにしていくかということが日々の問題です。また、歴史資料室の仕事には自校について広報するという役割もあり、在学生・教職員に向けた学園理解のひとつとしても活用されています。

広報・公開の方法は本・パンフレット・展示・学内広報誌などいろいろな形式があります。歴史的資料や調査研究した内容をどのように扱っていくかということが私にとって課題の一つです。

今回の研究会のテーマ「大学史の社会的使命」は、大学はどのような使命を持つことが出来るのか？ぜひ講演を聴きたいと楽しみでした。また、研究会の会場である國學院大學渋谷キャンパスには、かねてより気になっていた國學院大學伝統文化リサーチセンター資料館があり、見学も研修会内容に加わっていましたため、施設見学にも期待して、うきうき気分で参加させていただきました。

初日の齊藤智朗氏の講演「國學院大學における校史関係事業への取り組みについて」は、校史関係事業を研究開発推進機構の組織として明確に位置づけるため、伝統文化リサーチセンター、校史・学術資産研究センター、研究開発推進機構事務課を設置し、それぞれ、学部・大学院の人的交流や若手育成を念頭に置いた上で、建学の精神・理念や学風・校風にもとづいた事業に取り組んだ事例についての報告でした。自校史を広い視点から位置づけること、学内機関・部署との連携や教職員の協働関係の強化すること、F D・S Dに適合する協働事業としての校史関係事業を確立することなどに重点的に取り組み、実践されたことを拝聴し、圧倒されました。

伝統文化リサーチセンターの展示公開方法も、三つのコーナーが明確であり、高校生や一般の来館者の方々が興味深く見学しながら学習できる工夫がなされていて、本学ではとても真似できないとスケールの違いを垣間見ました。しかし小規模大学でも出来ることがあるかと思い直し、資料展示の参考とするところを探しながら施設見学いたしました。

2日目の本協議会会长鈴木秀幸氏による「大学史の社会的使命」の講演では、「大学史」の意味・意義から噛み砕いて説明していただきました。

資料に基づく調査収集・整理保存・利用活用という作業や活動において社会参画までを



質問する参加者と報告者

視野にいれて大学の歴史について考え、実行することを総称して大学史活動と呼び、大学史の広がりや社会参画に強く関係する社会的使命の実態について既に開始されている事例紹介をしていただきました。

大学史の社会的使命はこれだという回答は無く、歴史資料にかかわる私たちの様々な活動により社会と繋がっていくとの講演を拝聴し、自校史を誰にどのように伝えていかねばならないかということを考えるために基本にしたいと思い、頂いた資料を大切に持ち帰りファイリングしました。

引き続き、研修会は、菅真城氏の「大学のアーカイブスの社会的使命」、西山伸氏の「大学史展の現状と課題」、高橋秀典氏の「学徒兵に関する調査とその意義」のご講演を拝聴して3日目には国文学研究資料館の施設見学と濃密な3日間の研修内容でした。ご講演いただいた方々皆さんが分かりやすくお話ししてくださいましたので、大変充実した時間を過ごすことが出来ました。会長始め幹事の皆様に感謝いたします。

大学事務職員であるため人事異動により配属されて業務の担当者となり、大学の歴史資料を前にして考え倦んで、なかなか解決できないことがあります。本研究会に参加して、国立と私立の違いなども含めお互いの状況を知ることや、他大学の方々と話し合うことで自校の方向性を見出すことも出来ました。私にとっては「目からうろこ」のような、または「発想の転換」ができる研究会であり、東日本部会と西日本部会の合同の総会もまた、いろいろな刺激をいただける良い機会です。皆様これからもご指導いただきますようよろしくお願ひいたします。

2009年7月9日（木）研究会

「全国大学史展」の内容等について

京都大学大学文書館 西山 伸

全国大学史展ワーキング・グループでは、半年後に迫った「全国大学史展」（以下、「本展示」と表記）開催に向けて準備作業を行っている。本報告は、現在の準備状況をお知らせするとともに、会員からご意見をいただくことによって、今後の作業を充実させていく一助とすることを目的としている。

ワーキング・グループでは、本展示の目的を「日本における大学の設立に焦点を当て、幕末明治期から現在に至るまで、それぞれの時代のなかで大学が社会における要請や国家の定める制度に応じて、いかに自らを形作り、存在理由を示そうとしてきたかをたどる」と設定した。これはすなわち、個性的な創立者に焦点をあてるのではなく、社会や国家との関わりのなかで大学・高等教育機関の設立をとらえようとする視点である。

ところで、ひとくちに「大学の設立」といっても実は単純な問題ではない。というのも日本の大学の多くは、制度としての大学になる前に、様々な形の前身学校をもっており、個々の大学によってどの時点（前身学校の設立なのか、大学としての制度化なのか）を自らの設立と考えるかが異なっているからである。そこで本展示では、大学の設立を、①帝国大学令・大学令・新制大学といった法令・制度上大学としての設立、②専門学校認可等、法令・制度上高等教育機関としての設立、③各種の前身学校の設立、の三段階を設定して考察することとした。

本展示の構成としては、主題である「大学の設立」を「I模索の時代」「II多様化の時代」「III制度化の時代」「IV新しい大学の時代」の4つの時期に分け、さらに主題だけでは抜け落ちてしまう大学史の諸相を「V大学史のなかの学生たち」として、合計5章立てとすることを考えた。なお、展示品は各章15点から20点くらいを見込んでいる。

「I模索の時代」は、幕末維新期から学校令制定（1886年）以前までを対象とした。そこでは、変転する学校制度を解説した上で、教養教育、法律家養成、宗教系等の私立学校が簇生したこと、文部省管轄でないものも含



報告を聞く参加者

めて多様な官立学校が当初存在していたこと等の展示を考えている。「II多様化の時代」は、学校令制定から大学令制定（1918年）以前までを対象とした。そこでは、帝国大学を頂点とする学校体系が形作られたこと、女子教育・殖民学・商学・工学等、産業発展を背景とした多様な教育機関が設立されてきたこと、さらに一部の有力私学では大学昇格の運動が始まっていたこと等の展示を考えている。「III制度化の時代」は、大学令制定から敗戦までを対象とした。そこでは、大学令によって公私立大学、単科大学が誕生したこと、高等学校が急増したこと、美術・語学等一層多様な専門学校群が姿を見せたこと、戦時体制下において理工系の学校が設立されたこと等の展示を考えている。「IV新しい大学の時代」は、敗戦直後から高度成長期までを対象とした。そこでは、戦後改革のなかでの混乱を経つつ「国家のため」から「多数者の機会」へと変容をとげた大学の姿、女子大学の設立、大学の量的拡大等の展示を考えている。さらに「V大学史のなかの学生たち」では、明治・大正期、戦時期、戦後の学生たちを風俗、服装、生活といった側面からとらえた展示を考えている。

以上が、ワーキング・グループにおけるこれまでの議論を踏まえた展示案である。研究会ご参加の会員よりぜひとも積極的なご意見・ご教示を賜りたい。

2009年12月3日（木）研究会

西川武臣氏講演「ペリー来航と横浜開港」を聞いて

東京経済大学秘書課史料室 伊藤 彰男

今回の研究会では、開港150周年を迎えた横浜で横浜開港資料館の西川武臣氏による講演「ペリー来航と横浜開港」を聞いた。西川氏の講演は、「横浜開港資料館企画展『港都横浜の誕生』展出品資料の中から—新発見資料が語る横浜開港—」に関わる横浜開港前後の資料に基づいて行われた。資料から当時と現在の横浜を対照した興味深い解説があった。講演の会場は波止場会館で、ここは1854年にペリーが上陸した場所であり、当時の港の中心地であったところである。

講演の後、横浜開港資料館の新旧館を見学して開港時の横浜を知る良い機会となった。資料館は開港百年記念「横浜市史」の収集資料を基に開館し、主に開港前から関東大震災までの公私文書、新聞雑誌、写真と浮世絵など国内外の歴史資料を広く公開し、これらの歴史資料から横浜の歴史的役割を知ることができるようにになっている。そのことは、今回横浜開港150周年の企画展「村々の文明開化

港都を支えた200ヶ村の名士たち」として紹介していることに顕著に現れていると感じた。このように資料に横浜開港の歴史を系統的に語らしめている開港資料館の取組は、大学史資料に関わっている者にとって指針となるものであると思われた。本学では、大学史について関係者の理解は少しずつ深まってきているが、具体化されていないことが多く、このような先駆的な取組みから学んだことを今後反映させていきたい。また、今回は時間の制約により見ることができなかつたが、開港資料館における資料の保存と整理の見学を今後に期待したい。

【紹介された資料】

①開港直後のロシエの写真

プロカメラマンのロシエが野毛の神奈川奉行所の役宅を撮影した写真。野毛を写した最も古い写真で、この他にも神奈川宿と神奈川湊の2枚の写真がある。

②開港以前の横浜村の絵図

保土ヶ谷宿の本陣をつとめた軽部家に開港直前の横浜村の絵図が残されている。開港後の絵地図は数多いが、開港以前のものは少な



講演する西川武臣氏

く貴重なものである。

③横浜道建設に関する古文書

幕府は、横浜村の市街地・横浜道・波止場の建設を推進した。横浜道は東海道と開港場を結ぶ道であり、途中で工事資金が不足したのを地元有力者である軽部家に依頼して完成了ことが明らかになった。

④暮らしの西洋化に関する資料

開港後の横浜には西洋の文物が移入されていることが古文書から分かる。ガス灯建設は実業家高島家の古文書、日本最初の石鹼を販売した手塚佐七の廣告、1867年刊行の「どんたく目録」は太陰暦と太陽暦との対照表で西洋人との取引が活発になったことを示している。

⑤開港後の絵地図

1859（安政6）年安政の五カ国条約にもとづいて横浜が開港場となったときの絵地図（出版新榮堂）。当時の横浜の様子を見ることができる。

⑥開港後の横浜の絵図—「横浜開港見聞誌」

の浮世絵師貞秀による1860年代の横浜

- 「本序南横通り異人港崎の絵図（現県庁と開港記念会館の交差点近辺）」本町は道幅が広く、異人馬による馬車に乗り、用事ある所で止めて買物などをして馬車に乗って帰るなど、外国人の生活様式を示している。

- 「運上所西門より海岸西の波戸場を見た絵図（現みなと大通り、県庁近辺）」江戸からの荷物は西の波戸場外岸より水揚げして車に

移して本町出店へ入れるのに数十両の車の往来があり、非常に賑わっている様子が描かれている。

- ・「本町二丁目入口より五丁目までの絵図（現本町三丁目、関内大通り交差点近辺）」本町二丁目入口左角は江戸駿河町三井店の出店

2010年1月28日（木）研究会

で呉服店と横一丁目の方に両替店がある。使用人としてシナ人を雇っていた。

- ・「海岸通り二丁目入口の絵図（現海岸通り・横浜税関近辺）」本町で買物している近頃渡来の南京女性などが見られる。

全国大学史展「日本の大学—その設立と社会—」 展示観覧と展示評・1

日本女子大学成瀬記念館 永田 彩子

このたび、全国大学史展が無事、開催の運びとなった。会員校の一員としてとても嬉しく感じると共に、誇らしく思う。展示準備を中心となって進めてくださったワーキンググループの方々には、心よりお礼を申し上げる。

日本女子大学成瀬記念館は、この企画の初期の段階から話し合いに参加させていただいたが、その際に感じたことや、本学の展示と比較して気がついたことなどを2、3述べさせていただきたい。

日本女子大学成瀬記念館は、1984（昭和59）年に開館し、おかげさまで25周年を迎えることができた。その名の通り、創立者成瀬仁蔵の記念館として誕生した施設だが、学園全体の歴史や卒業生、教職員などに関する資料も収集するように努め、学園の博物館、また文書館としての機能を兼ねている。

当館の大きな特徴の一つは、「資料を展示として見せる」というスタイルをとってきたことであろう。開館以来、年に平均4回の企画展を行ない、1996（平成8）年に神奈川県の西生田キャンパスに分室ができるからは、両施設を合わせて年8本の企画展を開催している。

大学史展の企画が持ち上がった際に、実行委員会からお声をかけていただいたのは、そうした経験を見込まれてかと想像するが、實際にはあまりお役にたてず、恐縮するばかりである。

ただ本学としては、「女子大の代表」として企画に参加したいという思いがあった。まだ展示テーマは決まっていなかったが、今までの経験上、男性が中心となる企画では、どうしても女子についての事柄が抜け落ちる傾向にある。女子の高等教育が展示テーマから

こぼれないように見張っていようという、ひそかな意気込みを持っていたのである。

事実、「大学の設立」というテーマに決定した際に一番問題となったのは、様々な歴史を持つ各大学の創立をいつととらえるかが難しいということであった。そのいい例が女子大学であろう。日本女子大学も1901（明治34）年に開校したが、正式な大学としては認められず、その悲願がかなったのは戦後になってからである。

展示案の段階では、女子大学は戦後に誕生した大学として扱われる予定だったが、どうしても「Ⅱ多様化の時代」の中で紹介してほしいとワーキンググループにお願いした。20世紀の幕開けと共にいくつもの女子高等教育機関が産声をあげた事実を省略してしまっては、展示の目的である「社会における大学の存在理由を示す」ことが片手落ちになってしまふと感じたのである。

その意見は取り入れていただき、大変感謝している。本学の「女子大」の代表としての役割は、無事果たせたと胸を撫で下ろしている次第である。

改めて、複雑な背景を持つ、様々なタイプの大学を一度に紹介することは、非常に難しいことであったと思う。本展は、時系列に分かりやすくまとめてあり、どのような社会背景のもとに大学が生まれたか、見学者に理解していただけたのではないだろうか。

また各校の協力により、紙媒体の資料だけでなく、物品が多く集まることは、展示を非常に面白くしたように思う。歴史展は、どうしても内容が固くなりがちだが、実物資料によって、興味を持たせることができる。特に「V大学史の中の学生たち」のコーナーは、



ワーキンググループによる展示解説（中央資料は、「実践女学校創立期の制服」実践女子大学図書館蔵）

内容的にはやや脱線するが、写真や洋服、帽子などで見学者の目を引き付けることに成功していた。

展示方法に関しては、若干、キャプションの文字の大きさが小さかったように思う。突き当たりのガラスケースが他と比べて奥行きがあるために、当初のキャプションをすべて作り直したと伺っているが、さらにもう一まわり大きくてもよかつたのではないだろうか。

当館でも、展示の対象年齢によって、字の大きさや字体、パネルの高さなどを変えていく。私も本展の受付当番をして感じたが、今回の見学者は、中高年の方々が中心であった。会場となった明治大学の生涯学習講座に通っている方々かと推測される。学校系統図などにも強い関心を寄せており、ガラスケース越

しに食い入るように見ている姿を何度か見かけた。壁面の大きさから限界はあるが、全体的にパネルを大きくした方がいいように感じた。

また、パネルの高さは、やや低めに設定されていたようだが、これは見学者の年齢層からいえば、適切だったのではないだろうか。

さらに展示パネルやキャプションが、ブルーのデザインで統一されていたが、洗練された印象を与える一方、ややメリハリにかけていたように思う。ブルーのラインは、メインのパネルにだけ使用して、それ以外のキャプションは白のままでもよかったのではないだろうか。もしくは、6つのコーナーごとに、テーマカラーを変えてみるのも一つの方法である。

歴史展は地味になりがちなので、パネルの色やデザインで会場を華やかにする工夫が必要である。今後、巡回展の機会があれば、ぜひご検討いただきたい。

また、パネルをクリップでとめて、ワイヤーで吊るす手法が見栄えが良くないので気になつたが、展示室の都合でピン打ちができないとのことであった。色々と制約がある中で、展示作業に苦労された様子がしげのばれる。

本展は初めての試みであり、すべてが手探りであったが、開催することに大きな意義があったのではないだろうか。初日のマスコミ向けの説明会では「次回の展示テーマは何ですか？」との質問が出たそうだが、ぜひ今後も25年、30年と節目の年にこのような合同企画ができるることを願っている。

2010年1月28日（木）研究会

全国大学史展「日本の大学—その設立と社会—」 展示観覧と展示評・2

東洋学園史料室 永藤 欣久

1 全般

まず（誰しも）感じることは、実物の放つ訴求力である。全国大学史展（以下本展）は文書資料を中心としつつ、大学史資料の多様性も示した。また、主題は時系列に沿った展示区分（章立て）ごとの簡潔な解説を通じて貫かれ、高等教育史の概要を過不足なく理解できる。

大学史活動とは、各大学で独自になされてきた大学史編纂が横の繋がりを得て相互に関

連し合い、社会に能動的に働きかけていくもの、と理解している。本展はそのような意味での大学史活動の、まさに具現化であった。個々の資料が所属大学の枠を超えて、モザイク画のごとく高等教育史を可視化したことにも新鮮な感銘を覚える。

展示は広く一般に公開するものである以上、これを周知するため各種媒体により広報することが不可欠である。また、図録などの補助文書資料、ホームページの開設など、展示を

核に派生する情報発信のツールも多岐に亘る。社会（及び大学内部）に印象づける機能において、展示会場への動員実数以上に展示活動の放つインパクトは大きい。本展はもとより全国大学史資料協議会20年の節目を期した事業であるが、昨年はたまたま大学史に関する一般向け出版もあり（天野郁夫『大学の誕生』）、連続して社会の関心を呼ぶ時宜に適った展示となつた。

一方、「合同展」に際して費用負担も含めた資料授受の方法整備や広報面での協力など、会員校全体での関わり方を考えるきっかけとなつた。

総じて今回は初の試みとして総論の位置付けであり、今後各論への展開が期待される。

2 展示技法の観点から

(1) 文書資料とモノ

大学史資料の多様性を示しつつも、展示の主体は文書資料である。文書の展示は全体に平板で地味な印象は否めない。他の多彩な展示活動と競合して存在感を示せるか、博物館・美術館と大学史の展示を併せ持つ大学では実感されているのではないか。ここに展示品の選択と演出という課題が見えてくる。誰に見せるのか、研究者主体か、卒業生か、大衆社会なのかで展示内容も演出も違つてくる。

演出上、展示=見せるという行為には目玉となる“モノ”が必要である。その点で本展は各地に散在する諸大学からの出品で成り立つため、まずは輸送費上の制約があった。

文書は読んで内容を理解する性格のものであるが、展示では表紙か特定の部分しか見せられない。ジャンルを問わず展示では図録・補助資料での解説が必須である。文書資料の展示の場合はなおのこと必要であろう。

大学史活動の原点であり基本は年史編纂であったと思う。頒布対象は狭いものの、編纂の成果として刊行する書籍（年史・資料集など）は資料性と保存に優れる。展示は対象を広くして視覚的に優れた手法である。編纂（読む）と展示（見る）の効果的な組み合わせを模索したい。

(2) 文書資料の見せ方

文書資料でいかに興味を引くか。例として挙げた『近代教育を支えた教科書』展（印刷博物館2009年7～10月）のように、予算、準備時間など条件次第で映像、音声、凝ったパ



展示評を聞く参加者

ネルやスクリーンで説明・演出することが可能である。

費用をかけない工夫としては、平面の文書資料を立体的に見せ、また強弱のメリハリをつけることが考えられる。本展の場合、特に正面（区分Ⅱ・Ⅲ）が面一の横に長い展示台である。

1. 強調したいもの、小さいものは個別に台を重ねる（区分V角帽のみ実施あり）。
2. 傾斜角をつける（複製資料のみ実施。実物の場合は資料保護に留意）。

2009年度全国研究会で見学した国文学研究資料館では、見易さと資料保護を追及した展示であることを担当者が強調されていた。これなども参考になるだろう。

(3) キャプションとパネル

審美的要素の多寡であろう、美術館はモノそのものを見せ、博物館はモノを説明するとされる。本展は簡潔なキャプションを旨として成功しているが、前述のようにより詳細を知りたい方のための補助解説があればと思った。図録が事後となつたことは惜しまれる。

パネルに関して、各区分扉パネルはより大きく、または色を用いて差別化し、吊り位置は大小に拘わらず視線の高さにパネル中心点を集めると見易い。展示物とキャプションの置き方では、平行と直角をより意識して演示すると整然と見える。

3 資料と人

大学史に対する学内外とも大方の期待は、「大学の歴史面での顔の役割」である。特に私学の場合、建学と創立者は切り離せないが、本展では人、創立者をイメージさせる「創立」の用語を避け、「その設立と社会」と銘打つ

ている。主題はまさにそこにあり、建学の神話性や物語性は除外されている。

人が前面に出ない教育史展は、華（顔）がないと思われるかもしれない。この主題設定が社会からどう評価されるかで、大学史活動

に対する社会的理解度が計れるだろう。

最後に、本展実現に尽力された展示実行委員会にあらためて敬意を表しますとともに、展示評発表の機会を与えて下さったことにお礼申し上げます。

* * * * *

全国大学史資料協議会 2009年度総会議事録・記念講演記録

日 時 2009年10月14日(水)14時20分～15時
 会 場 國學院大學渋谷キャンパス学術メディ
 アセンター1階常磐松ホール
 出 席 <東日本部会>
 愛知医科大学 愛知大学
 神奈川大学 慶應義塾 恵泉女子学園
 國學院大學 駒澤大学 自由学園
 上智大学 女子美術大学 成蹊学園
 創価大学 大東文化大学 拓殖大学
 中央大学 東海大学 東京経済大学
 東北学院 東北大学 東洋学園大学
 東洋大学校友会 日本女子大学
 日本体育大学 日本大学
 北海道大学 宮城学院
 武藏野美術大学 明治学院
 明治大学 立教大学 立正大学
 東田 全義 青柳小百合
 桑尾光太郎 西山 伸
 橋本久美子
 <西日本部会>
 追手門学院大学 大阪商業大学
 大阪大学 大谷大学 関西大学
 関西学院 京都産業大学 熊本大学
 神戸女学院 同志社女子大学
 同志社大学 広島大学 桃山学院
 立命館 龍谷大学
 橋本 弘之
 *東日本部会
 <機関>31校(44名)
 <個人他>5名<合計>49名
 *西日本部会
 <機関>15校(20名)
 <個人他>1名<合計>21名
 *欠席届
 東日本部会分18校10名
 西日本部会分14校6名
 開 会 司会 武藏野美術大学
 石田 順二氏(全国大学史資料協議

会事務局校)

開会に先立ち、司会より総会成立の報告があり、次いで8月14日に逝去した東日本部会個人会員の故日露野好章氏に黙祷を捧げた。

開会挨拶 明治大学 鈴木 秀幸氏
 (全国大学史資料協議会会长校)

議長選出 議長 中央大学 中川 壽之氏
 副議長 熊本大学 上野平真希氏

議 題 1. 2009年度役員会の報告について
 (報告事項)

協議会事務局校(武藏野美術大学、石田順二氏)より、本総会開催に先立ち開催された全国役員会での審議内容が次の通り報告された。

(1)協議会規約の一部改正について
 総会に諮ることを決定した。

(2)2009年度総会・全国研究会の運営体制を決定した。

(3)2009年度東西両部会共同事業として研究叢書第10号を刊行し、次年度は第11号を東日本部会が編集を担当し刊行することを決定した。また2008年度から開設された協議会ホームページについて、東西各部会において運営方法の検討を進めることを決定した。

(4)2010年度総会・全国研究会を熊本大学を主会場として開催することを決定した。

2. 全国大学史資料協議会規約の一部改正について(承認事項)

協議会事務局校より改正趣旨について説明があり、全会一致で承認された。

3. 2009年度東・西両部会事業計画報告(報告事項)

東日本部会事務局(武藏野美術大学、石田順二氏)・西日本部会庶務校(立命館、齋藤重氏)から、

各部会事業計画書にもとづいて本年度事業計画が報告された。

4. その他

特になし。

会場校挨拶 國學院大學学長 安蘇谷正彦氏
記念講演 講師 齊藤 智朗氏
(國學院大學研究開発推進機構准教授)

演題 「國學院大學における校史関係事業への取り組みについて」

概要 國學院大學は、1882年に前身の皇典講究所が設立されて以来、日本の伝統文化を中心とした研究教育活動を行ってきた大学であるが、その校史を担当する部署は三つ存在している。その第一は、研究開発推進機構伝統文化リサーチセンターであり、2007年に文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業に選定されたものである。ここでは「國學院大學の学術資産に見るモノと心」研究プロジェクトのもと、國學院が出版した刊行物や所蔵する各種コレクションを対象とした調査・研究を行っているほか、展示を通じた研究成果の公開を実施している。第二は、研究開発推進機構校史・学術資産研究センターである。ここでは、図書館所蔵の貴重書の研究、写真等のデジタル化、自校史教育などを行っている。第三は、研究開発推進機構事務課であり、法人・大学の校史資料の収集、保管、利用、公開、調査研究や校史に関する情報収集、および校史編纂に関する業務を行っている。以上の組織が日頃から連携しながら、自校史を広い視野から位置づけ、建学の精神や学風に基づいた校史関係事業への取り組みを行っている。

(西山 伸)

見学 國學院大學伝統文化リサーチセンター資料館等見学
案内 益井邦夫氏、齊藤智朗氏
(國學院大學)

情報交換会 見学終了後、國學院大學内、若木タワー18階展望室「有栖川宮記念ホール」にて情報交換会を開催した。司会は伊藤昇氏(立命館)が行った。開会挨拶は全国大学史資料協議会副

会長校の落合万里子氏(同志社大学)が、乾杯の音頭は伊藤昌弘氏(成蹊学園)が務めた。新規入会会員や新規担当者、復帰者などの紹介があり、情報交換がなされた。閉会の辞は益井邦夫氏(國學院大學)が行った。

全国大学史資料協議会 2009年度役員会議事録

(第97回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録)

日時 2009年10月14日(水)
13時00分～13時30分

会場 國學院大學渋谷キャンパス学術メディアセンター5階会議室06

出席 (東日本部会)
神奈川大学(副会長)
慶應義塾(監査委員)
國學院大學(監査委員)
成蹊学園(運営委員・事務局)
大東文化大学(監査委員)
東海大学(運営委員)
東京経済大学(会計委員)
東洋大学校友会(会計委員)
日本大学(運営委員・事務局)
武藏野美術大学(運営委員・事務局)
明治大学(会長)

西山 伸(運営委員)
(西日本部会)
大阪大学(幹事)
関西大学(会報担当)
関西学院(監査)
同志社(部会長)
広島大学(副庶務)
桃山学院(副部会長)
立命館(庶務)
龍谷大学(会計)

議題 (1)全国大学史資料協議会規約の一部改正について

事務局(武藏野美術大学)より、規約改正の件について説明があり、審議の上了承され、総会で承認を得ることとなった。

(2)2009年度総会・全国研究会の運営について

大会運営について、各役員の役割分担が「役割担当表」にもとづいて確認された。なお、総会冒頭

に本年8月に逝去された東日本部会個人会員の日露野好章さんに默祷を捧げることが事務局（武蔵野美術大学）より提案され、了承された。

(3)2009年度の東西両部会の共同事業について

『研究叢書』第10号が本日の総会で配付されることが報告された。『研究叢書』第11号については、東日本部会が担当となることが確認された。

広島大学よりホームページの運営について問題提起があり、各部会が持ち帰って検討し、具体的に提案することを確認した。

(4)その他

2010年度の総会・全国研究会について、西日本部会より熊本大学を会場として開催する提案があり、了承された。

**全国大学史資料協議会
東日本部会幹事会議事録**

第98回 2009年10月15日(木)17時～17時10分
会 場 國學院大學渋谷キャンパス学術メディアセンター1階常磐松ホール

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
成蹊学園 大東文化大学 東海大学
東京経済大学 東洋大学校友会
日本大学 武蔵野美術大学
明治大学

中村 青志 西山 伸

議 事 1. 全国大学史展について

「大学史展」実行委員長の西山伸氏から、「会場借用の関係上、明治大学史資料センターとの共催となることについてご了承いただきたい」との説明があり、共催について了承された。さらに西山伸氏から「会期中の受付ローテーション表及び受付業務等に関する基準を近々送付する」との報告があった。

2. その他

- ・明年1月開催予定の研究会の日取りを1月28日として準備を進めることとなった。
- ・橋本久美子氏の個人会員入会を了

承した。

第99回 2009年12月3日(木)13時10分～14時

会 場 波止場会館4階大会議室

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
成蹊学園 大東文化大学 東海大学
東京経済大学 東洋大学校友会
日本大学 武蔵野美術大学

明治大学

中村 青志

議 事 1. 2009年度総会・全国研究会総括事務局（武蔵野美術大学）より、総会・全国研究会参加者数の状況について報告があり、続いて会計校（東京経済大学）より全国総会・研究会の会計報告があり、承認された。

2. 「日本の大学 その設立と社会」展について

ワーキンググループ村松玄太氏（明治大学）から、展示開催期間中の受付業務・受付ローテーション等について説明があり、承認された。

3. 今年度研究会について

研究会担当（東海大学）より、今後の予定について概略説明があり、続いて1月担当日本大学松原太郎氏、3月担当慶應義塾赤堀美和子氏より内容説明があり、承認された。

4. ホームページの運営について

事務局より、ホームページ担当（成蹊学園）とデザイナーとで改善を検討中との報告があった。今後、西日本部会による検討結果とすり合わせることになることを確認した。

5. 会報発行報告

会報担当（神奈川大学）より、会報第41号が発行された旨の報告があった。

6. 研究叢書第11号編集報告

編集担当（日本大学）より、目次案・印刷費見積り等概要説明があった。

7. その他

*セミナーへの後援依頼について
事務局から、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会より「公文書

「管理法制定にともなうセミナー」に対する後援名義使用の承認依頼がある旨報告があり、審議の結果、承認された。この後、西日本部会の承認を待って、同協議会へ回答することとなった。

第100回 2010年1月28日(木)

13時～13時55分

会場 明治大学アカデミーコモン2階

A1会議室

出席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
成蹊學園 大東文化大学 東海大学
東京經濟大学 東洋大学校友会
日本大学 武藏野美術大学
明治大学
西山 伸

- 議事 1、会員の休会・入会について
休会届の提出があった立教女学院資料室と入会の申込みがあった野澤和範氏について、これを承認した。
2、全国大学史展図録の作成について
「大学史展」実行委員長西山伸氏より、大学史展の図録を来年度に作成したいとの説明があり、諮った結果、了承された。
3、2010年度部会総会について
事務局（武藏野美術大学）より、2010年度部会総会日程（案）の説明があり、了承された。
4、2010年度幹事会について
2010年度の部会総会開催に先立つて、会員に対し幹事立候補の案内を出すこととなった。
5、2010年度研究会について
研究会テーマについて、3月の幹事会にまた話し合うこととなった。
6、その他
特になし。

全国大学史資料協議会 東日本部会研究会記録

名称 全国大学史資料協議会2009年度全国研究会（第67回東日本部会研究会）
テーマ 「大学史の社会的使命」

日時 2009年10月15日(木)～16日(金)
会場 10月15日(木)
國學院大學渋谷キャンパス学術メディアセンター1階常磐松ホール
10月16日(金) 国文学研究資料館
出席 <東日本部会>
愛知医科大学 愛知大学 青山学院
神奈川大学 慶應義塾 恵泉女子学園
國學院大學 駒澤大学 自由学園
上智大学 女子美術大学 成蹊学園
聖路加看護大学 創価大学
大東文化大学 拓殖大学 中央大学
東海大学 東京経済大学 東北学院
東北大学 東洋学園大学 東洋大学
校友会 日本体育大学 日本大学
北海道大学 宮城学院
武藏野美術大学 明治学院
明治大学 立教大学 立正大学
東田 全義 桑尾光太郎
佃 隆一郎 中村 青志 西山 伸
橋本久美子
<西日本部会>
追手門学院大学 大阪大学
大谷大学 関西大学 関西学院
京都産業大学 熊本大学
神戸女学院 同志社女子大学
同志社大学 広島大学 桃山学院
立命館
橋本 弘之
*東日本部会
<機関>32校(44名)
<個人他>6名 <合計>50名
*西日本部会
<機関>13校(18名)
<個人他>1名 <合計>19名
司会 西口 忠氏(桃山学院)
開会挨拶 明治大学 鈴木 秀幸氏
(全国大学史資料協議会会长校)
全国研究会テーマ 「大学史の社会的使命」
テーマ設定の意義
コーディネーター 鈴木 秀幸氏
(明治大学大学史資料センター)
鈴木氏は、「大学史」の意味を説き、その上で「大学史活動」の意義とその広がり、社会的使命について述べた。考える契機となった学内業務、学外活動に触れ、そしてすでに実践されている事例を紹介した。大学史に関わる者として現在そして今

後を考察する上で、3つの報告をしていただくことにしたと結んだ。

報告1 菅 真城氏

(大阪大学文書館設置準備室)
「大学アーカイブズの社会的使命」
[概要]

「社会的使命」の観点に立って大学アーカイブズ一般について論じた報告は、「大学史」と「大学アーカイブズ」は似て非なるもの、と切り出してスタート。その説明として「大学史」は「大学沿革史」と意味を同じくし、年史編纂を担当する組織であり、それは大学アーカイブズが本来担うべき機能の一部分、との補足がなされた。

また「アーカイブズ」は「機関アーカイブズ」と「収集アーカイブズ」とに大別され、前者は「親機関によつて整理ないし受理された記録を保管する場」、後者は「個人、家族、組織から資料を収集して保管する場」との定義づけを紹介。その上で大学アーカイブズは両者の機能を有した「トータルアーカイブズ」を目指すべきとの提起があった。親機関から資料が自動的に流入するシステムを構築するのは必然であり、その「機関アーカイブズ」としての機能を中心につつ、各大学が性格・戦略に応じていかに施設・予算・人員を配分し「収集アーカイブズ」の機能を兼備するかが重要だと強調がなされた。

さらに2009年7月1日に公布された「公文書等の管理に関する法律」が謳う、「国民が主体的に利用し得る」よう条件整備を求める精神は、国公私立を問わず全大学が尊重すべきであり、資料公開基準の成文化はもとより、ウェブサイトを積極活用したアクセス権の保証、目録の公開をするべきとの提言があった。結びとして、法人の運営に関わる事務文書に留まらず、教育研究に関する資料の収集も、大学アーカイブズが真に社会的使命を果たすために取り組むべき、との課題が挙げられた。

(中西祐悟)

報告2 西山 伸氏 (京都大学大学文書館)

「大学史展示の現状と課題」
[概要]

西山氏の報告は、本協議会の会員校などがこれまで取り組んできた「大学史展示」の現状・動向や課題などを検討し、2010年開催予定の「全国大学史展」について紹介したものである。

西山氏は、まず会員校の各大学では大学史展示が盛んに行なわれている現状を述べ、そのなかで少ないながらも秋山俱子氏や小枝弘和氏による注目すべき展示論が出されていることを指摘した。そして、展示の動向として大学の通史を扱うものから、個別のテーマ展示へ対象が広がっている状況を示し、近年ではとりわけ「戦争と大学」が多く取り上げられるなか、学生を主人公とする展示はまだまだ未開拓であるとした。こうした傾向をふまえながら、大学アーカイブズの展示は、他に歴史を扱う博物館等の存在する自治体アーカイブズとは異なって、大学の歴史的側面の「顔」という特徴を有し、さらに重要なこととして展示も資料整理や調査といったアーカイブズとしての日常活動に支えられていることを強調した。

そして西山氏は今後の展示の課題として、現在の大学を見るうえで重要な「戦後」を展示において射程に入れる視点など5点を指摘し、最後に開催予定の「全国大学史展」の紹介を準備状況から展示構成まで具体的に行なった。「全国大学史展」は、課題のひとつである「大学横断的展示」の試みであり、この展示が本協議会の展示論の一助になることを期待して報告を締め括った。

(齊藤研也)

報告3 高橋 秀典氏 (日本大学資料館設置準備室)

「学徒兵に関する調査とその意義」
[概要]

学徒兵（昭和初年～20年）を題材にその調査研究の意義と動向についての報告であった。調査研究の意義

とは、①戦没者に対する慰靈、②戦時体制下の大学および陸海軍と大学について広い視点から考える手掛かりの2点が挙げられ、後者が現在の日本大学での調査の中心となっている。次に学徒兵調査に関する諸大学の動向と日本大学での調査・展示について紹介された。同大学資料館設置準備室としては学内調査を円滑にできる環境でないため、外部の資料で日本大学関係者に関連のあるものを調査しているのが現状であると述べられた。さらに調査に際しては、対象時期や扱う範囲、就職先としての陸海軍、留日学生（台湾・朝鮮出身者）などが留意点として挙げられた。今後の課題は、実態調査をより深め、多面的な視点からの調査を深めることにあり、このような調査を大学の社会的使命として、節目の時だけではなく継続的に行っていく必要があるという結論で締めくられた。

（赤堀美和子）

総括討論

司会 豊田 徳子氏（東洋大学校友会）
パネリスト コーディネーター、報告者3氏、
西口 忠氏（桃山学院史料室）

[概要]

「大学史の社会的使命」をテーマとする2009年度全国研究会の総括討論は、コーディネーター鈴木秀幸氏の問題提起と報告者である菅真城氏・西山伸氏・高橋秀典氏の各報告とともに、豊田徳子氏（東洋大学校友会）の司会で行われた。

フロアからの質問や意見は、菅氏の報告が取扱った大学アーカイブズの領域に集中した。取り上げられた主な問題を紹介すると、大学史編纂組織と大学アーカイブズ組織との差異、大学アーカイブズと一般のアーカイブズとの差異、大学アーカイブズは研究機関ではないのか、大学の規模の相違により大学アーカイブズにも多様性が生じるのではないか、大学アーカイブズの理念と大学アーカイブズがつくられる実態プロセスとの関係を理解する必要があり、大

学アーカイブズの実態を知ることが必要ではないかなどである。菅氏の報告が理念論の立場からなされたのに対し、さらに実態論の視点から大学アーカイブズに関する認識を深めるべきとの意見が印象に残った。

西山氏が報告した大学史展示に対しては、大学アーカイブズ機能自体に関する展示の可能性があるか、大学横断的な展示にはどのような意味があるのかなどの質問が出された。これらに連れて、西山氏は、現在準備中の大学史展示に関して、東日本部会の事業であるが、可能な場合は、東日本以外から展示資料提供の協力を得たいと述べた。

高橋氏が報告した学徒兵に関する調査に対しては、学徒出陣に関する体系的展示が可能か、報告で参照されている各大学の調査が昭和40年以降の実施のものであるのは何故か、それ以前にも学徒兵に関する調査があるのではないか、などの質問が出された。

今回の討論は、大学アーカイブズ論に集中したが、鈴木氏が提起した大学史の社会的使命や大学史の裾野の広さなどに関しては、今後さらに認識を深め、議論を重ねる必要がある。

（中村青志）

*各報告、総括討論詳細については、『研究叢書』第11号に収録予定の諸論考を参照されたい。

閉会挨拶 同志社大学 落合万里子氏（全国大学史資料協議会副会長校）

見学会 国文学研究資料館

司会 浅沼 薫奈氏（大東文化大学）

概要説明 青木 瞳氏（国文学研究資料館文学形成研究系准教授）

[概要]

今回の見学会は、2008年4月に立川市へ移転が完了した国文学研究資料館である。新装なった資料館に40名を超える会員が参加し、10時から文学形成研究系准教授の青木瞳氏により国文学研究資料館について、主に資料の保存に関する概要説明を受け、その後全員で館内を見学した。

青木氏からは、「国文学研究資料

館における資料保存の取り組み」と題して「—MLAの視点から資料価値の発信と保存に取り組む国文学研究資料館一次世代のアーカイブズをめざして」についてパワーポイントを利用して次のとおり講演があった。

(1)施設の紹介

建物は地下1階地上2階建で2008年4月に開館した。立川市のこの一帯は、立川断層が走っており、そのため建物は免震構造となっている。

1階は閲覧室と展示室で、閲覧室の棚は免震機能付になっている。展示室は特別展もできるようになっており、特に照度に留意している。地階は書庫と収蔵庫になっており、集密電動書架とした。貴重書庫にはマルチクリーンシステムを導入した。収蔵庫は中性紙製段ボール箱を使って填め込みアーカイブズ収納をしている。器物資料は主として日本実業史博物館のもの資料を保存している。

設備では、資料の保存環境維持と地球環境を守る観点に配慮し、ランニングコストの軽減に努めた。空調は、基本的に自然の温度変化を受け入れ、除湿の対策をした。照度は、資料の種類により推奨値を定め対応している。酸化対策では、硫黄酸化物と窒素酸化物を測定して管理し、また害虫対策をした。

(2)資料の保存対策

所蔵資料は約60万点であり、史料群ごとの保存措置進捗表を作成して、保存の確認をしている。また、それに基づき、史料個体の保存状態を分析し、対策を講じている。

(3)アーカイブズ・カレッジ

資料館の重要な柱のひとつであるアーキビスト教育として、平成21年度アーカイブズ・カレッジを立川市と佐賀市で開講する。

(4)資料館が目指すもの

アーカイブズ研究系として、つぎのことを目指している。

- ・アーカイブズ情報センターとしての拡充
- ・アーカイブズ学研究教育機関としての発展
- ・総合アーカイブズとしての新しい方向

青木氏による講演の後、各施設を見学し、特別展示「江戸の長編読みもの～読本・実録・人情本～」を見学して散会した。今回の見学会は施設設備が立派で予算も多額と思われ、各大学がすぐに対応できるものではないが、ランニングコストの軽減を工夫していることやこれからの方針など参考になる事例が数多く見受けられた。

(伊藤彰男)

第68回 2009年12月3日(木)14時～17時
 会場 波止場会館4階大会議室
 横浜開港資料館
 参加 青山学院 神奈川大学 慶應義塾
 工学院大学 國學院大學
 国士館大学 自由学園
 女子美術大学 成蹊学園
 大東文化大学 東海大学
 東京経済大学 東京電機大学
 東洋学園大学 東洋大学校友会
 日本女子大学 日本体育大学
 日本大学 法政大学
 武藏野美術大学 明治学院
 明治大学
 青柳小百合 中村 青志 (以上32名)

会長挨拶 鈴木 秀幸氏
 (明治大学史資料センター)
 司会 澤木 武美氏
 (神奈川大学大学資料編纂室)
 講演 西川 武臣氏 (横浜開港資料館)
 「ペリー来航と横浜開港」
 見学 横浜開港資料館
 概要 西川氏は冒頭、横浜開港百年を記念して編さんされた『横浜市史』の収集資料を基礎に、1981(昭和56)年、ペリーの上陸地付近に設置された横浜開港資料館の概要を紹介した。続いて横浜の開港と産業、そして都市の形成について、同館が所蔵する25万点にもおよぶ絵図・錦絵・資料を

豊富に使用しながら報告した。西川氏は開港以降、生糸貿易等を端緒として多くの外国人が日本人と交流しながら、種々の軋轢の舞台ともなった横浜の歩みを「交流と摩擦の歴史」と総括した。また西川氏は、横浜が関東大震災と戦災によってほとんどの資料を焼失してしまったため、海外の外交文書を含めて積極的に外部資料の収集にあたっていることを紹介し、さまざまな理由で横浜を訪れた人々（武士・生糸商人など）が郷里や知人に書き送った手紙から、当時の横浜の生活環境・風俗などを読み取る試みについて触れた。

講演終了後、横浜開港資料館の常設展示および「村々の文明開化—港都を支えた200ヶ村の名士たち」見学会を行った。
（村松玄太）

- 第69回 2010年1月28日(木)
14時30分～17時10分
会 場 明治大学アカデミーコモン2階A1
会議室
出 座 愛知大学 神奈川大学 慶應義塾
恵泉女学園 國學院大學
国士館大学 駒澤女子大学
駒澤大学 芝浦工業大学 自由学園
女子美術大学 成蹊学園
大東文化大学 拓殖大学 中央大学
東海大学 東京経済大学
東京電機大学 東洋学園大学
東洋大学校友会 日本女子大学
日本大学 武藏学園
武蔵野美術大学 明治大学
立教大学 立正大学 東田 全義
秋山 俱子 佃 隆一郎
中村 青志 西山 伸 吉川 隆博
菅 真城（大阪大学）落合万里子
(同志社) (以上44名)
会長挨拶 鈴木 秀幸氏
(明治大学史資料センター)
司 会 松原 太郎氏
(日本大学資料館設置準備室)
テマ 全国大学史展「日本の大学—その設立と社会—」展示観覧と展示評・討論
概 要 全国大学史資料協議会東日本部会
が、約5年の期間をかけて準備した

全国大学史展「日本の大学—その設立と社会」が、2010年1月15日から明治大学博物館特別展示室で始まった。これに因んで、展示の見学と展示評・討論会の2部構成からなる研究会を開催した。

はじめに、参加者全員が大学史展示を見学しながら、企画から展示まで直接携わったワーキンググループの5人の方から各担当コーナーの意図・構成について説明を受けた。見学後、展示評・討論会に移り、永田彩子氏（日本女子大学）と永藤欣久氏（東洋学園大学）が自らの展示経験を踏まえた展示評を行った。これに対するワーキンググループの応答のあと、全体での討論となり、今後の課題や問題点について率直な意見の交換が行われた。

今回の大学横断の歴史展は、初めての試みであった。展示評・討論の内容は、ともに次回以降のよりよい展示に向けた真剣なもので、有意義な研究会となつた。
（豊田徳子）

全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿 (2010年1月28日現在)

【名誉会員】

竹市 知弘・城田 秀雄・東田 全義

【機関会員】 担当部課室／住所・電話他

- 1 愛知医科大学 大学文書室
〒480-1195 愛知郡長久手町
大字岩作字雁又21
電話:0561-62-3311 (内) 1265
FAX :0561-62-4662
- 2 愛知大学 豊橋研究支援課
〒441-8522 豊橋市町畑町1-1
電話:0532-47-4579
FAX :0532-47-4129
URL :<http://www.aichi-u.ac.jp/>
- 3 青山学院 資料センター
〒229-8558 相模原市淵野辺5-10-1
青山学院大学N棟403
電話:03-3409-6742
FAX :03-3409-8134
URL :<http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/index.html>
- 4 学習院 学習院院史資料室（休会扱い）

- 〒171-8588 豊島区目白1-5-1
電話:03-3986-0221
FAX :03-5992-1068
- 5 神奈川大学 大学資料編纂室
(副会長)
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
電話:045-481-5661
FAX :045-491-7915
URL :<http://archives.kanagawa-u.ac.jp/>
- 6 関東学院 学院史資料室
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
電話:045-786-7066
FAX :045-786-2932
URL :<http://www.kanto-gakuin.ac.jp>
- 7 慶應義塾 福澤研究センター
(監査委員)
〒108-8345 港区三田2-15-45
電話:03-5427-1604
FAX :03-5427-1605
URL :<http://www.fmc.keio.ac.jp>
- 8 恵泉女学園 史料室
〒156-0055 世田谷区船橋5-8-1
電話/FAX :03-3303-6920
- 9 工学院大学 創立125周年記念事業事務室
(125年史編纂委員会事務局)
〒163-8677 新宿区西新宿1-24-2
電話:03-3340-1496
FAX :03-3345-0228
- 10 皇學館 館史編纂室
〒516-8555 伊勢市神田久志本町1704
電話:0596-22-6817
- 11 國學院大學 校史・学術資産研究センター
(運営委員)
〒150-8440 渋谷区東4-10-28
電話:03-3797-3684
FAX :03-5466-9237
URL :<http://www.kokugakuin.ac.jp/oard/>
- 12 国際基督教大学 図書館大学史資料室
〒181-8585 三鷹市大沢3-10-2
電話:0422-33-3306, 3308
FAX :0422-33-3305
- 13 国士館 国士館史資料室
〒154-8515 世田谷区世田谷4-28-1
柴田会館2階
電話:03-3418-2691
FAX :03-3418-2694
URL :<http://www.kokushikan.ac.jp>
- 14 駒澤女子大学 広報部
〒206-8511 稲城市坂浜238
電話:042-331-1911
FAX :042-331-1919
- 15 駒沢大学 禅文化歴史博物館大学史資料室
〒154-8525 世田谷区駒沢1-23-1
電話:03-3418-9613
FAX :03-3418-9611
URL :<http://www.komazawa-u.ac.jp/~zenbunka>
- 16 実践女子学園 総務部学園史資料室
〒191-8510 日野市大坂上4-1-1
電話:042-585-8945
FAX :042-585-8808
- 17 芝浦工業大学 入試・広報部広報課
〒135-8548 江東区豊洲3-7-5
電話:03-5859-7070
FAX :03-5859-7071
URL :<http://www.shibaura-it.ac.jp>
- 18 自由学園 自由学園資料室
〒203-8521 東久留米市学園町1-8-15
電話:042-422-3111 (内) 217
FAX :042-422-1078
URL :[http://www.jiyu.ac.jp/](http://www.jiyu.ac.jp)
- 19 上智大学 資・史料室
〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1
電話:03-3238-3294
FAX :03-3238-3539
URL :<http://www.sophia.ac.jp>
- 20 女子美術大学 歴史資料室
〒228-8538 相模原市麻溝台1900
電話/FAX :042-778-6754
- 21 聖学院 本部理事長室
〒114-8574 北区中里3-12-2
電話:03-3917-8332
FAX :03-3940-3798
- 22 成蹊学園 史料館
(運営委員・事務局)
〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
電話:0422-37-3994
FAX :0422-37-3298
URL :<http://www.seikei.ac.jp>
- 23 成城学園 教育研究所
〒157-8511 世田谷区成城6-1-20
電話:03-3482-1484
FAX :03-3482-5272
URL :<http://www.seijogakuen.ed.jp/>
- 24 聖路加看護大学 大学史編纂・資料室
〒104-0044 中央区明石町10-1
電話:03-3546-0770
FAX :03-3446-3575
- 25 専修大学 総務部大学史資料課
〒101-8425 千代田区神田神保町3-8
電話:03-3265-5879
FAX :03-3265-5923

- 26 創価大学 創価教育研究所
 〒192-8577 八王子市丹木町1-236
 電話:042-691-5623
 FAX :042-691-5654
 URL :<http://office.soka.ac.jp/faculty/edu-research/>
- 27 大東文化大学
 大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）
 (監査委員)
 〒175-0083 板橋区徳丸2-19-10
 電話:03-5399-7646
 FAX :03-5399-7647
 URL :<http://www2.daito.ac.jp>
- 28 拓殖大学 創立百年史編纂室
 〒112-8585 文京区小日向3-4-14
 電話:03-3947-7140
 FAX :03-3947-7294
- 29 玉川大学 教育博物館
 〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
 電話:042-739-8656
 FAX :042-739-8654
 URL :<http://www.tamagawa.jp/research/museum/>
- 30 多摩美術大学 大学史編纂室
 〒158-8558 世田谷区上野毛3-15-34
 電話:03-3702-1168
 FAX :03-3702-9416
- 31 千葉商科大学
 総務課史料編纂担当（休会扱い）
 〒272-8512 市川市国府台1-3-1
 電話:047-372-4111
 FAX :047-373-4283
- 32 中央大学
 入学センター事務部大学史編纂課
 〒192-0393 八王子市東中野742-1
 電話:0426-74-2132（直）
 FAX :0426-74-2203
- 33 津田塾大学 津田梅子資料室
 〒187-8577 小平市津田町2-1-1
 電話:042-342-5219
 FAX :042-342-5249
- 34 東海大学 学園史資料センター
 (運営委員)
 〒259-1292 平塚市北金目1117
 東海大学同窓会館2F
 電話:0463-50-2450
 FAX :0463-50-2449
 URL :http://www.u-tokai.ac.jp/shiryo_center/
- 35 東京基督教大学 歴史資料保存委員会
 〒270-1347 印西市内野3-301-5-1
- 36 東京経済大学 秘書課
 (会計委員)
 〒185-8502 国分寺市南町1-7-34
 電話:042-328-7955
 FAX :042-328-5900
 URL :<http://www.tku.ac.jp>
- 37 東京女子医科大学
 史料室・吉岡彌生記念室
 〒162-8666 新宿区河田町8-1
 電話:03-3353-8111（内22213）
 FAX :03-3353-8209
 URL :<http://www.twmu.ac.jp/U/facilities/f06yayoi.html>
- 38 東京女子大学
 大学運営部総務課大学資料室
 〒167-8585 杉並区善福寺2-6-1
 電話:03-5382-6294（直通）
 FAX :03-3395-1037
 URL :<http://office.twcu.ac.jp/general-affairs/archives>
- 39 東京電機大学 経営企画室
 〒101-8457 千代田区神田錦町2-2
 電話:03-5280-3723
 FAX :03-5280-3566
 URL :<http://www.dendai.ac.jp/>
- 40 東京農業大学 図書館
 〒156-8502 世田谷区桜ヶ丘1-1-1
 電話:03-5477-2525
 FAX :03-5477-2639
- 41 東北学院 庶務部広報課
 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1
 電話:022-264-6423（代表）
 FAX :022-264-6478
 URL :<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp>
- 42 東北大學 史料館
 百年史編纂室
 〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
 電話:022-217-5040（史料館）
 022-217-5042（百年史）
 FAX :022-217-4998
 URL :史料館
<http://www.archives.tohoku.ac.jp>
 URL :百年史
<http://www.archives.tohoku.ac.jp/hensan/>
- 43 東洋英和女学院 史料室
 〒106-8507 港区六本木5-14-40
 電話:03-3583-3325（代）

- FAX :03-3583-3329 (直)
URL :<http://www.toyoeiwa.ac.jp>
- 44 東洋学園大学 東洋学園史料室
〒113-0033 文京区本郷1-26-3
電話:03-3811-2840
FAX :03-3811-5176
URL :<http://www.tyg.jp/tgu/toyo/archiv.html>
- 45 東洋大学 井上円了記念学術センター
〒112-8606 文京区白山5-28-20
電話:03-3945-7555
FAX :03-3945-7601
URL :<http://www.toyo.ac.jp/enryo/index.html>
- 46 東洋大学 校友会
(会計委員)
〒113-0021 文京区本駒込1-10-2
甫水会館内
電話:03-3946-9111
FAX :03-3946-6311
URL :<http://www.toyo.ac.jp/koyukai>
- 47 獨協学園 資料センター
〒340-0042 草加市学園町1-1
電話:048-946-2800
FAX :048-942-4312
URL :<http://www.dac.ac.jp/>
- 48 名古屋大学 大学文書資料室
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
電話:052-789-2046
FAX :052-788-6222
URL :<http://nua.jimu.nagoya-u.ac.jp>
- 49 南山大学 史料室
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
電話:052-832-3111 (内3120・3121)
FAX :052-833-6985
- 50 日本工業大学 総務課 (休会扱い)
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町
学園台4-1
電話:0480-34-4111 (代)
FAX :0480-34-2941
- 51 日本女子大学 成瀬記念館
〒112-8681 文京区目白台2-8-1
電話:03-5981-3376
FAX :03-5981-3378
URL :<http://www.jwu.ac.jp/>
- 52 日本体育大学 図書館
横浜健志台分館
〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1
(図書館)
〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町1221-1
(分館)
- 電話:03-5706-0907 (図書館)
045-963-7906 (分館)
FAX :03-5706-0913
URL :<http://library.nittai.ac.jp/lib/~index.html>
- 53 日本大学 総務部大学史編纂課
(運営委員・事務局)
日本大学資料館 (仮称) 設置準備室
〒102-8251 千代田区五番町12-5
(編纂課)
〒102-8275 千代田区九段南4-8-24
(準備室)
電話:03-5275-9628 (編纂課)
03-5275-8336 (準備室)
FAX :03-5275-8325 (編纂課)
03-5275-9410 (準備室)
URL :<http://www.nihon-u.ac.jp>
- 54 法政大学 図書館事務部総務課大学史担当
〒102-8160 千代田区富士見2-14-17
電話:03-5212-4108
FAX :03-5212-4109
URL :<http://www.hosei.ac.jp>
- 55 北海道大学 大学文書館
〒060-0808 札幌市北区北8西5
北海道大学附属図書館4階
電話/FAX :011-706-2395 (内線2395)
URL :<http://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/>
- 56 宮城学院 資料室
〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1
電話:022-279-7765
FAX :022-279-4667
URL :<http://www.mgu.ac.jp>
- 57 武蔵学園 記念室
〒176-8533 練馬区豊玉上1-26-1
電話:03-5984-3748
FAX :03-5984-4785
URL :<http://www.musashi.jp/archives>
- 58 武蔵野美術大学 大学史史料室
(運営委員・事務局)
〒187-8505 小平市小川町1-736
電話:042-342-6091
FAX :042-342-9547
URL :<http://www.musabi.ac.jp/history>
- 59 明海大学 浦安キャンパスメディアセンター
(図書館)
〒279-8550 千葉県浦安市明海1丁目
電話:047-350-4997
FAX :047-355-7992
URL :<http://opac.meikai.ac.jp/>
- 60 明治学院 歴史資料館
〒108-8636 港区白金台1-2-37

- 電話/FAX :03-5421-5170
URL :<http://www.meijigakuin.ac.jp/~siryokan/>
- 61 明治大学 大学史資料センター
(会長)
〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1
電話:03-3296-4085・4329
FAX :03-3296-4086
URL :<http://www.meiji.ac.jp/history/>
- 62 立教女学院 学院資料室
〒168-8616 東京都杉並区久我山4-29-60
電話:03-3334-5105
FAX :03-3334-8393
URL :<http://www.rikkyo.ne.jp/grp/jogakuin-shiryo/>
- 63 立教大学 立教学院史資料センター
〒171-0021 豊島区西池袋3丁目
電話/FAX :03-3985-2790
URL :<http://www.rikkyo.ne.jp/web/z3000450/index.html>
- 64 立正大学 総務部総務課
〒141-8602 品川区大崎4-2-16
電話:03-3492-2681
FAX :03-5487-3338
URL :<http://www.ris.ac.jp>
- 65 早稲田大学 大学史資料センター
〒162-0041 新宿区早稲田鶴巻町513
早稲田大学研究開発センター
120-1号館5階
電話:03-5286-1814
FAX :03-5286-1815
URL :<http://www.waseda.jp/archives/>

【個人会員】

- 1 青柳小百合 (株式会社 ニチマイ)
- 2 秋山 俱子
- 3 安藤 正人 (学習院大学大学院人文科学
研究科アーカイブズ学専攻)
- 4 石原 一則 (神奈川県立公文書館)
- 5 伊藤 純郎 (筑波大学大学院
人文社会科学研究科)
- 6 上田 紗代 (東京女子学館中学校・高等学校)
- 7 内山 宏 (日本図書館協会・日仏図書館
情報学会・経済資料協議会)
- 8 大沢 泉 (八戸大学)
- 9 小川千代子 (国際資料研究所)
- 10 越知 専 (愛知大学東亜同文書院大学記
念センター/オープン・リサー
チセンター)
- 11 神谷 智 (愛知大学文学部)
- 12 北村 和夫 (聖心女子大学文学部)

- 13 桑尾光太郎 (学習院アーカイブズ準備室)
- 14 坂口 貴弘 (国文学研究史料館
アーカイブズ研究系)
- 15 谷本 宗生 (東京大学史史料室)
- 16 佃 隆一郎 (愛知大学東亜同文書院大学記
念センター/オープン・リサー
チセンター)
- 17 寺寄 弘康 (神奈川県立歴史博物館)
- 18 中村 青志 (運営委員・東京経済大学)
- 19 中村 治人 (岡崎女子短期大学)
- 20 中村 賴道 (企業史料協議会)
- 21 西山 伸 (運営委員・京都大学大学文書館)
- 22 野澤 和範 (ミガク大学総合研究所)
- 23 橋本久美子 (東京芸術大学
音楽学部学史編纂室)
- 24 藤田 正 (愛媛県歴史文化博物館)
- 25 古郡 信幸 (清泉女子大学)
- 26 細井 守 (藤沢市教育委員会
博物館準備担当)
- 27 吉川 隆博

ご案内

全国大学史資料協議会及び同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【武蔵野美術大学・大学史史料室】

〒187-8505
東京都小平市小川町1-736
☎ 042-342-6091

【日本大学・総務部大学史編纂課】

〒102-8251
千代田区五番町12-5
☎ 03-5275-9628

【成蹊学園・史料館】

〒180-8633
武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
☎ 0422-37-3994

会報編集**【神奈川大学・大学資料編纂室】**

〒221-8686
横浜市神奈川区六角橋3-27-1
☎ 045-481-5661